インフラメンテ大賞
プレキャスト３件が受賞

国土交通省、農林水産省など６省は８月９日、第２回インフラメンテナンス大賞の表彰式を中央合同庁舎２号館（東京都千代田区）で開催した。

インフラメンテナンス大賞は、インフラメンテナンスに係る優れた取り組みや技術開発を表彰し、ベストプラクティスとして紹介することを通じて、関係する事業者・団体・研究者の取り組みを促進し、メンテナンス産業の活性化やインフラメンテナンスの理念の普及を図ることを目的として昨年発足。第２回となる今回は、応募総数２０５件の中から32件が大臣賞・特別賞・優秀賞の各賞を受賞。インフラを所管する６省（国土交通、文部科学、厚生労働、農林水産、総務、防衛）ごとに、石井啓一国交相ら各省の代表者が最優秀賞にあたる大臣賞などの表彰状を手渡した。

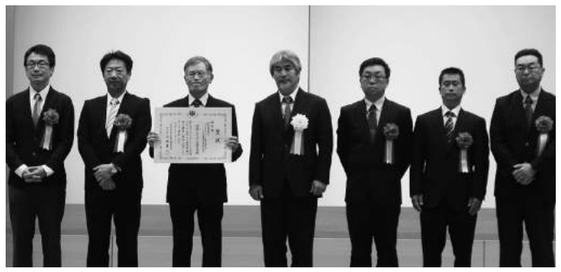
式典で挨拶した石井啓一国土交通大臣は「我が国のインフラの多くは高度成長期に整備され、国民生活や経済成長を支えてきた。しかし急速に老朽化が進行していく事態に直面しており、戦略的な維持管理更新を進めていくことが重要だ。そのためインフラ長寿命化に関する計画を策定し、あらゆる知恵や技術を総動員してインフラメンテナンスに取り組んで行かなければならない」と強調。受賞者の一層の協力を求めた。さらに石井大臣は産学官民が一丸となってインフラ老朽化対策に取り組むプラットフォーム、インフラメンテナンス国民会議について「会員数が１５００を超え、地方フォーラムが設立されるなど、その取り組みが全国に広がりつつある」と指摘。国民会議を通じ、受賞者の取り組みをベストプラクティスとして強力に水平展開を図っていく考えを示した。

講評を行った京都大学総長の山極壽一選考委員長は「安全安心な国民の生活基盤を支えるインフラの整備・メンテナンスは、災害の多い我が国が抱える喫緊の課題だ。このような課題に対して国民のひとりひとりが高い関心を抱き、現代の科学技術を活かして最新の設備を構築するなど、インフラメンテナンスに社会全体で取り組む必要がある。今回のインフラメンテナンス大賞には、自治体・企業・ＮＧＯなど幅広い団体から応募があり、多様な取り組みと技術の進歩が明らかになった。その中でも特に意欲的で他の参考になるものを評価した。今後も新しい意欲的な取り組みが増えることを期待している。審査を通じて審査員一同が考えたのはインフラのジャンルや技術開発の方向において、より網羅的な賞とすべき点で、それは応募内容にまだ偏りがあるという事でもある。それぞれの省が所轄する事業で適切なメンテナンスは喫緊の課題となっている。引き続きメンテナンスに関する優れた取り組みや技術開発の掘り起こしをお願いしたい。受賞した技術が全国に水平展開され、全国のメンテナンス現場の取り組みや技術開発が促進し、メンテナンス産業の活性化につながる事を期待している」と述べた。

コンクリート製品関係では、**【農林水産省特別賞】**「プレキャストコンクリート製残置型枠工法」による漁港設置の長寿命化対策（漁港プレキャスト工法研究会）**【国土交通省優秀賞】**植物の特性を利用した防草技術／防草ブロック・エレファンドレン（全国防草ブロック工業会）、ディンプルｆ（ゴトウコンクリート）―の３者が受賞した。技術内容と受賞理由は次の通り。

【プレキャストコンクリート製残置型枠工法】コンクリート製重力式係留船岸（岸壁・物揚場）などの施設性能の維持・改善、向上のために実施する水中コンクリートによる「腹付け工」をプレキャスト化。コンクリート製の型枠を構造物の一部とすることで効率的かつ安全に施工することができる技術。プレキャストコンクリートブロックを残置型枠として用いることで、従来の鋼製型枠に比べ工期短縮が可能になると共に、打設コンクリート幅を狭くすることができ経済性が向上。さらに型枠内での潜水作業や組立時の高所作業が解消し作業の安全性が向上する点も評価された。

【植物の特性を利用した防草技術】植物の成長メカニズムを利用して雑草の成長を抑制する技術。何も使用せずにコンクリート製品と舗装の間から雑草が生えるのを抑える効果が維持できる。植物の生長特性に着目した防草技術が独創的で、従来の防草技術に比べてＣＯ２の排出削減が図られるなど、環境にも


漁港プレキャスト工法研究会

全国防草ブロック工業会

配慮した技術である他、大学との共同研究や実道路におけるフィールドでの試験など、産官学が連携した実施検証を継続していることなどが評価された。

【ディンプルｆ】側溝蓋に設けたモルタル注入孔から無収縮モルタルを注入し、既存側溝との一体化を図り、ガタツキ・破損を抑え長寿命化を図る技術。側溝蓋自体の幅・厚みを自由に設定できるため、現在流通していない製品など多くの現場に対応できる技術。車両や歩行者の通行状況に対応するよう様々な改良が施されており、既に多くの実績を有している事などから、同様の課題を抱えた現場に水平展開できる技術として評価された。

ゴトウコンクリート

ＩＬブロック講習会
東京など３会場で開催

JIPEA

インターロッキングブロック舗装技術協会（会長＝中村俊行氏）は、東京・名古屋・大阪の３会場でインターロッキングブロック舗装技術講習会を開催する。

道路デザイン、景観舗装についての最近の状況等について説明すると共に、昨年同協会が改定発刊した「インターロッキングブロック舗装設計施工要領」の中から、特に車道に適用する場合の設計・施工・材料等に関する解説と事例の紹介を行い、ブロック舗装の良さの再認識につなげるのが狙い。受講料は各会場とも３０００円。協会ウェブサイトから申込書をダウンロードし、記載内容に従いＦＡＸまたはＥメールで申し込む。

締切りは東京会場10月10日、名古屋会場11月５日、大阪会場11月12日。定員各１００名、定員になり次第締め切る。

【東京会場】10月30日、東京流通センター第２会議室（東京都大田区平和島）▽基調講演（13時～13時30分）「交通安全対策についての国の施策」五十川泰史（国土交通省道路局道路交通安全対策室長）▽（13時30分～14時30分）「道路デザイン指針（案）」及び「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」の概要 天野光一▽（14時30分～15時30分）「景観舗装について」水野政純（土木学会舗装環境小委員会元委員、大成ロテック）▽（15時50分～16時50分）「インターロッキングブロック舗装の車道への適用」唐澤明彦（ＪＩＰＥＡ技術委員会委員・幹事長、エスビック）

【名古屋会場】11月14日、今池ガスビル７Ｆダイヤモンドルーム（名古屋市千種区）▽基調講演（13時10分～13時40分）「交通安全対策について国の施策」五十川泰史▽（13時40分～14時40分）「道路デザイン指針（案）」及び「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」の概要 天野光一▽（14時40分～15時40分）「景観舗装について」水野政純▽（15時55分～16時55分）「インターロッキングブロック舗装の車道への適用」加形護（ＪＩＰＥＡ技術委員会技術調査ＷＧリーダー、元鹿島道路執行役員）

【大阪会場】11月22日、サムティフェイム新大阪２階ホール１（大阪市淀川区西中島）▽基調講演（13時～13時30分）「交通安全対策についての国の施策」五十川泰史▽（13時30分～14時30分）「道路デザイン指針（案）」及び「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」の概要 天野光一▽（14時30分～15時30分）「景観舗装について」竹田敏憲（土木学会舗装環境小委員会元委員長、ニチレキ）▽（15時50分～16時50分）「インターロッキングブロック舗装の車道への適用」加形護

建設技術展近畿２０１８開催
10月24・25日

建設技術展近畿２０１８が10月24・25日、マイドーム大阪（大阪市中央区）で開催される。

各社のブース展示の他、24日には恒例の橋梁模型製作コンテストをはじめ、午前10時30分から12時30分まで、関西ライフライン研究会地震防災フォーラム「南海トラフ巨大地震に備えて～初動対応と応急復旧の仕組みづくり」を開催。近畿地方整備局の黒川純一良局長が「大規模災害に備える」と題して基調講演する他、西日本旅客鉄道の木村元哉土木課長ら４氏のパネル講演が行われる。

また13時から14時30分まで、地域企業の海外進出支援フォーラムとして国交省総合政策局による講演や「最新の海外インフラ事業の取り組み」をテーマにパネルディスカッションが行われる。開催時間は10時から17時（25日は16時半）まで、入場無料。

コンクリート製品関係では▽Ｗ２Ｒ工法協会近畿支部▽ゴトウコンクリート▽住友大阪セメントグループ▽太平洋セメント／太平洋プレコン工業／太平洋マテリアル／小野田ケミコ▽イビコン▽日之出水道機器―が出展する。

環境配慮型企業向私募債を発行

ナガ・ツキ

ナガ・ツキ（本社、広島県広島市中区吉島西一―二一―一、社長＝長谷川晴信氏）は９月25日、５０００万円の環境配慮型企業向け私募債（無担保社債）を発行し、伊予銀行が全額を受託した。償還期間は５年で、運転資金に充当する。

環境配慮型企業向け私募債は、一定の財務基準を満たし、かつ環境配慮型経営を行っている優良企業が、その信用力を背景に発行する無担保社債。一般の銀行保証付私募債よりも低コストで起債できる。同社は環境配慮製品を取り扱っており、製品供給を通じてインフラ整備と環境保全に貢献している点が評価され、今回の起債に至った。